



NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>



『明けまして おめでとうございます』

皆様にとって、穏やかで、幸せな年であることを願っております。初詣は済みましたか。近所の氏神様、熱田神宮、伊勢神宮、豊川稲荷、一畑山薬師寺、犬山成田山等々に、さまざまな思い、願いを胸に参拝を済まされた方も多いいと思います。

まだ、済んでいない方に、耳よりの情報をひとつ。皆さんご存知のとおり、今年の干支は「戌」。そこで、どうせお参りするなら、「話のネタ」になるような、イヌにまつわる「パワースポット」を探してみました。ありました、ありました。イヌ

名古屋市西区稲生町2-12 にある、その名も「伊奴神社」。

地名の稲生町からもわかるように昔は庄内川の豊富な水を使って、稲作が盛んに行われ、伊奴神社は天武天皇の御代（西暦673年）、この地で取れた稲を皇室に献上した際に建立されたと伝えられています。

稲作が盛んに行われていた一方で洪水に困っていたようで、伊奴神社には、創建にまつわる、次のような言い伝えがあり、伊奴、犬、稲生のつながりが見えてきます。

ある日、山伏が旅の途中で（現稲生町）に泊まった時のこと。村人から洪水で困っていることを聞いた、山伏は泊めてもらったお礼に御幣を立ててご祈禱した。するとその年は洪水もなく豊作であった。

不思議に思った村人は、山伏から「開けてはいけない」と言われていた御幣をあけてしまった。するとその中には一匹の「犬の絵」と「犬の王」という文字が書いてあった。そして中身を見てしまった次の年、伊奴村はまた洪水に見舞われた。

再び村を訪れた山伏に御幣を開けてしまった事を詫言、もう一度ご祈禱をして欲しいと頼んだところ、山伏は「御幣を埋め、社を建て祀れ」と言って立去った。言われたとおりにしたところ、以後洪水はなくなり稲がよく穫れるようになった。

それが伊奴神社の始まりであると伝えられ、以後災難厄除けの神様として崇められてきました。

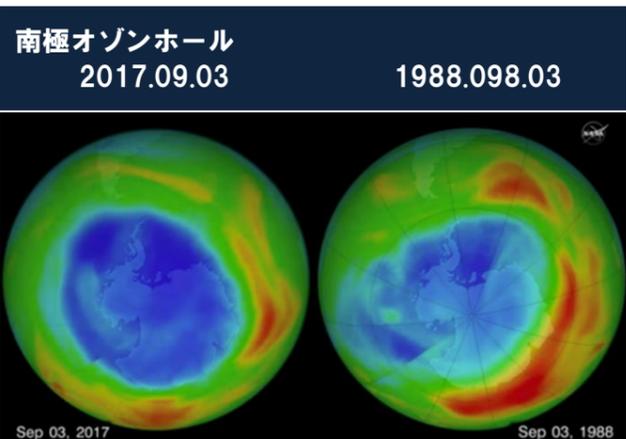
ご祭神、伊奴姫神さまは安産、子授けに大きなご神徳を頂ける神様であり、犬は安産であることから、犬の石像が奉獻されています。

伊奴神社に詣でた後は、犬の王の写真と言えで、なるほど、イイネと会話が弾むとイイです。



【ISO14001掲示板】南極オゾンホール 1988年以来最少の大きさ フロン規制の効果か、地球温暖化の影響か

オゾン層は 上空10~50キロの成層圏にあり、3個の酸素原子からなるオゾン分子が多く存在し、地上の生物に有害な紫外線を吸収する重要な役割をしています。皆さんご存知のとおり、オゾン層におけるオゾン濃度の減少は、塩素や臭素を含むフロンなどの化合物が紫外線によって分解され、発生した塩素がオゾン破壊することで起きるとされています。
オゾンホールが 1980年代に入り南極上空ではっきりと観測され始めたことをきっかけに1987年にフロンの製造や使用を規制するモントリオール議定書が採択され89年に発効しました。2016年、一時は破壊が進んだ大気上空のオゾン層が、今世紀に入って回復傾向にあると米マサチューセッツ工科大のチームが米科学誌サイエンスに発表し、破壊物質のフロンを規制してオゾン層を保護する国際条約「モントリオール議定書」の効果が表れた形となりました。



2017年の南極オゾンホールは 気象庁が米国航空宇宙局の衛星観測データを基に解析した結果、その面積は、8月下旬以降、最近10年間の平均値より小さく、9月下旬には最近10年間の最小値より小さく推移しました。今年の最大面積は、9月11日に記録した1,878万km²（南極大陸の約1.4倍）で、1988年以来の小さな値となりました。

地球温暖化により 成層圏の気温が8月中旬以降かなり高く推移したことにより、オゾン層破壊を促進させる極域成層圏雲が例年よりも発達しなかったことが、今年のオゾンホールが顕著に小さかった要因として考えられるとしています。

オゾン層破壊物質の濃度は 緩やかに減少しているものの、高い状態にあり、世界気象機関と国連環境計画の報告によると、南極上空のオゾンホールがほぼ見られなかった1980年の水準に回復するのは、今世紀半ば以降になると予測されています。

フロンの製造や使用を 規制することによるオゾンホールの縮小、消滅に近い将来予測される一方で、その観測結果から地球温暖化が確認される結果となったことを真摯に受け止めていく必要があるようです。

シブヤの庭 2018年1月

学名：Narcissus 和名：スイセン（水仙・日本スイセン）
科名/属名：ヒガンバナ科/スイセン属（ナルキッス属）
有毒植物：毒成分はリコリン、シュウ酸カルシウムなど。全草が有毒で鱗茎に毒成分が多い。
食後30分以内で吐き気や下痢、発汗、頭痛などを起こす

「シブヤの庭」に「スイセン」の季節がやって来ました。中家さんが球根を掘起こし、植替え、面倒を見てきたスイセンが玄関脇のフェンス内、駐車場の花壇などで12月から咲き始め、1月に入り今が盛りと甘い香りを漂わせています。地中海東部沿岸の原産地で、シルクロードを経て平安末期に日本に伝わったとされ、伊豆半島や越前海岸のものは大陸から黒潮や対馬海流に乗って漂着し、根付いたとも言われています。「水仙」の生け花に息を止め、花器の水面から「ツーツ」と立上がった、たたずまいに見入ったことがあります。その気高さは「華道」のなせる技か、それとも「水仙」の「花ことば、通りのナルシズム故か。1月の厳しい寒さの中、心もとない冬の日差しを逃すことなく葉に受けて、凛として咲くその姿は、私たちに植物のたくましさ「如何に生きるべきか」を示しているように感じます。

